

三尺三寸箸

副校長 森田 彰

今年の運動会は平日に開催となりました。天気の動向は私たちの都合を優先してはくれませんが、子供たちは待ち望んだ運動会に、精一杯に取り組みました。きりっと引き締まった顔つきに成長を感じました。

「先生、すごく楽しかったよ!」とわざわざ報告に来てくれた子の顔を見ると、何にも変えがたい素敵な体験ができたのだな、とうれしくなります。

さて、運動会が昔からこんなにも子供をひきつけるのはどうしてなのでしょう。そのヒントが下の話にあります。

昔、ある男が地獄と極楽の見学にでかけました。最初に行ったのは地獄です。お昼時のようで、食卓にはずらりとおいしそうなお料理が並んでいます。粗末な食事なのかと思っていた男はびっくり仰天。しかし、こんな食事が並んでいるのにそこにいる人達はやせ細っているのです。食事の始まるのを待っていると鐘が鳴ります。「食事、はじめ。」それぞれに食事を始めるのですが、手に持っているのは1メートルもあろうかという長い長い箸です。その長い箸を使って必死に食べようとするのですが、1メートルもある箸ですからご馳走は口に入りません。イライラして当り散らしたり、泣き出したりする始末。そのうちに隣の人がつまんだ料理を奪おうとして争いまで始まります。誰一人として満足に食事ができず、終わりを告げる鐘が鳴り、ご馳走は減らないままに下膳されてしまいました。

その男は、次に極楽へ向かいました。これもまた食事の時間らしく、食卓にはにこやかに座っている人たちがいます。もちろん、料理はどれもおいしそうでいい匂いを漂わせています。「極楽の人は、さすがにふくよかだな。」そう思いながら見ていますと、手に持っているのは1メートルもあろうかという長い長い箸です。

「どうも同じ箸のようだが、いったい何が違うのだろうか。」
食事が始まると、なるほど、と思いました。極楽の人は、長い長い箸でご馳走をつまみ、お互いに「どうぞどうぞ」といいながら食べさせるのです。食べさせてもらった人は、というと「ありがとうございます。あなたはなにがお好みでしたっけ。」とニコニコしながらご馳走をつまみ、相手の口に運んでやるのでした。

きっと上の話のように、子供も、先生も、保護者も、地域も、自分ができることを見つけ、力いっぱいがんばったのだ。だから、いい運動会になったのだ、と思っています。きっと子供たち自身に確かなものを残すことができたはずです。

たくさんの応援、たくさんの支えをありがとうございました。